

岐阜県循環器病対策推進協議会 議事概要

- 1 日 時 令和7年1月22日（水）14時00分～15時30分
- 2 場 所 岐阜県庁議会棟 第1会議室
- 3 出席者 委員14名、オブザーバー10名、事務局5名

令和6年度岐阜県循環器病対策推進協議会名簿

○委員

	所属	役職	氏名	備考
1	岐阜大学大学院医学系研究科循環器病態学	教授	大倉 宏之	欠席
2	岐阜大学大学院医学系研究科脳神経外科学分野	教授	出雲 剛	
3	岐阜大学大学院医学系研究科高度先進外科学分野	教授	土井 潔	欠席
4	岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野	教授	下畑 享良	欠席
5	岐阜大学大学院医学系研究科救急・災害医学分野	准教授	岡田 英志	代理:臨床講師 成瀬 元気
6	岐阜市民病院	事業管理者	岩間 亨	
7	岐阜県小児科医会	理事	矢嶋 茂裕	欠席
8	岐阜県医師会	常務理事	加川 憲作	代理:常務理事 平野 良尚
9	岐阜県病院協会	会長	松波 英寿	代理:副会長 岩間 亨
10	岐阜県歯科医師会	副会長	島村 憲優	
11	岐阜県薬剤師会	常務理事	金森 豊	
12	岐阜県看護協会	会長	青木 京子	
13	岐阜県栄養士会	副会長	筒井 孝太	
14	岐阜県理学療法士会	理学療法士	三川 浩太郎	
15	患者代表(心疾患)		廣瀬 功	
16	患者代表(脳血管疾患)		猪島 康雄	
17	岐阜市消防本部	救急課長	根尾 惣磨	
18	全国健康保険協会岐阜支部	保健グループ長	田上 英樹	
19	岐阜県市町村保健活動協議会保健師部会	副部会長	山崎 佐知子	

○オブザーバー

20	岐阜労働局職業安定部職業安定課	課長	西尾 方宏	
21	岐阜産業保健総合支援センター	副所長	溝口 裕之	
22	保健所長代表	所長	河野 芳功	
23	岐阜県危機管理部消防課	課長	此島 祐司	代理:救急支援監 下通 仁
24	岐阜県教育委員会体育健康課	課長	浦野 善裕	代理:課長補佐 池田 勉
25	岐阜県商工労働部産業人材課	人材確保対策監	岩田 真澄	
26	岐阜県健康福祉部医療整備課	課長	山田 徳秀	
27	岐阜県健康福祉部医療福祉連携推進課	課長	深見 太二	
28	岐阜県健康福祉部国民健康保険課	課長	佐藤 利枝	
29	岐阜県健康福祉部高齢福祉課	課長	篠田 芳己	代理:係長 高田 昌司

○事務局

1	岐阜県健康福祉部	部長	丹藤 昌治
2	岐阜県健康福祉部保健医療課	課長	居波 由紀子
3		課長補佐	上野 尚哉
4		係長	広江 正光
5		主任技師	佐藤 あゆみ

4 協議内容

- (1) 第2期岐阜県循環器病対策推進計画と岐阜県における循環器病対策の取組みについて
【岐阜県脳卒中・心臓病等総合支援センターについて】

- ・広い県土をもつ岐阜県では、岐阜県脳卒中・心臓病等総合支援センターがハブとなり各圏域に取組みを展開していく必要がある。相談支援については、多職種が連携して臨むため

SCPA-J（スカーパジャパン）岐阜支部とともに展開していき、脳卒中医療については、各医療圏の核となる一次脳卒中センターを中心としたネットワークを構築する取組みを県下に広めていく。

- ・地域かかりつけ医としては当該センターがバックに存在していることはありがたい。
- ・地域の看護師にとっても中央にセンターがあるということはとても大切であり、退院後の患者について何かあればセンターに相談し、実際の対応は地域で、という形が実現できるとよい。
- ・患者としては退院後のフォローをお願いしたい。

【循環器病の予防や正しい知識の普及／健診の普及や取組の推進】

- ・岐阜県の特定健診受診率、保健指導実施率が高い数値を維持していることは、対象者への訪問等による取組みの成果といえる。特に県と協会けんぽの保健指導実施率を比較すると県が上回るため、保険者としてはもっと努力が必要だと考えている。
- ・健診を受け、健診結果によっては保健指導や医療機関受診をするサイクルの癖を一人でも多くの方につけていただくことを目的にして今後も活動していく。
- ・県内で健診受診率に地域差があるなか、いかに受診率を向上させるか、未受診者を拾い上げて具体的な対策につなげていくかということに取り組む必要がある。
- ・歯科領域でのフレイル予防は歯科衛生士の活躍が重要であるため人材育成に取り組む。また、今後は歯科検診と特定健診を絡めた取組みができるとよい。
- ・薬剤師も出前講座を実施している。電子タバコが身体に及ぼす影響に関する客観的データが無い場合、データを集めていけるとより一層啓蒙しやすい。
- ・県栄養士会では県の委託を請け、食育、食生活改善、フレイル予防について、県民向けの啓発・個別支援を行うとともに、関係者向け研修会や連携会議等も開催している。さらなる啓発に取り組み、また関係者に対しては地域ごとの課題解決のための連携を推進する。
- ・県理学療法士会は市町村から委託を請けてフレイル予防のための事業を行っている。
- ・健康寿命の延伸のためには健康な人へのアプローチが重要であるため、保健師は地域に出向いて健康な方への支援も行っている。様々な職種と連携をとっていくことが重要。

【救急医療体制の整備】

- ・救急搬送システムについて、厚労省と総務省消防庁が、患者情報や画像等を救急隊から医療機関に送ることで搬送困難事例を解消する取組みを始める動きがあるとの情報。ICTを利用して短時間のうちに情報を医療機関へ正確に伝えることが出来れば住民にとってもプラスになると考える。
- ・循環器内科医としては、将来的には救急隊からの12誘導心電図を見ることができれば、搬送先に関するアドバイスなども含めてディスカッションができ、搬送困難症例が減ることに繋がるのではないかと期待する。

【かかりつけ医による疾患管理の徹底／再発・再入院予防／退院後の生活の質の向上】

- ・岐阜県循環器疾患医療連携推進事業では、心不全をメインとした予防プログラムとして

血圧と LDL コレステロールの二つに絞って取り組んでいる。これにより特定健診検査項目等のデータが改善していくことを目指す。

- ・地域には循環器病の専門的な知識をもつ看護師が少ないため、専門知識をもつ病院勤務の看護師と在宅・訪問看護の看護師との連携のための会議が必要。また、市町村単位で多職種が情報共有できる場を定期的に開催できるよう、行政にリーダーシップをとっていただきたい。

(2) 岐阜県における循環器病対策の取組みのための新体制について

- ・計画推進のために組織の整理が行われた。PSC コア会議や SCPA-J 岐阜支部はいずれも始まったばかりであり、県脳卒中・心臓病等総合支援センターがこれらの会議体も開催していくことになるためご理解をいただきたい。
- ・岐阜県循環器病医療ネットワーク構築事業について、IT を使った医療連携への転換は非常に重要だと考える。その実績として統計をとる必要があるが、県脳卒中・心臓病等総合支援センターのソーシャルワーカー等の人員を活用してデータベースを作っていきたい。
- ・県内の縦横のつながりを作り、全県下にしっかりと取組みを浸透させることがこの協議会の一番の目的だと考える。当会での議論を県全体の医療の向上につなげたい。